

説明書

治療・検査の名称	移植尿管 DJ カテーテル留置術
----------	------------------

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

腎移植術後尿瘻

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

腎移植手術のときに移植腎の尿管と膀胱を吻合したところから（または移植尿管から）尿が漏れています。手術時には尿は漏れていなかったため、原因としては吻合部に圧がかかり組織が損傷したことなどが推測されますが、原因を特定できないことの方が多いです。

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

目的：移植腎の尿管に DJ カテーテルを留置し、尿瘻をなくすことが目的です。

必要性：尿瘻はこのまま放置しても治ることはありません。感染を起こすと敗血症にいたることがあります。

4. 方法（なにをどうするのか）

経尿道的に内視鏡スコープを挿入し、移植腎の尿管を膀胱に吻合したところから逆行性に DJ カテーテルを留置します。

5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

吻合部から尿が漏れている場合は DJ カテーテルを留置することで尿瘻はなくなります。DJ カテーテルは膀胱鏡で容易に抜去することができます。

DJ カテーテルを留置しても尿瘻が持続する場合には吻合部以外から尿が漏れている可能性があります。場合によっては開腹手術が必要となります。

6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

- ・出血：術後しばらく血尿が続くことがありますが通常は自然治癒します。
- ・感染症：尿路感染症を発症することがごくまれにあります。
- ・カテーテル留置困難：手術直後は尿管がむくんでいるため DJ カテーテルを挿入できない場合があります。その場合には移植腎に直接管を通す移植腎瘻の造設や、開腹手術が必要となります。
- ・肺血栓塞栓症：まれではありますが、術前から下肢の静脈に血のかたまり（血栓）がある場合や、長時間の手術の影響で血栓が発生した場合に、血液の流れに乗り肺に到達し、肺の血管をつめてしまう病気です。太い血管につまったり、大量につまったりすると突然死することがあります。術中に予防処置をとらせていただきますが、それでも発症することがあります。

ます。

・肝機能障害：麻酔、手術で使用する様々な薬剤によって肝臓に負担がかかることがあります。必要であれば薬剤投与、透析などの処置を行います。

・術後精神障害・せん妄：高齢者、大きな手術を受けられた方、手術に対する不安・恐怖が大きい方では術後に精神異常をきたすことがあります。一時的であることがほとんどです。暴れたりして術後管理に支障をきたすようであれば「身体拘束の同意」をいただくこともあります。

7. 合併症発生時の対処について（費用負担もふくめて）

合併症改善に全力を尽くします。緊急の合併症の際は迅速な対処を最優先し、その結果として説明が対処の後になる場合があります。合併症や偶発症が起こった場合、治療に最善を尽くします。予想される合併症についてはできるかぎり説明いたします。しかし、極めてまれなものや、予想外のものもあり、すべての可能性を言い尽くすことはできません。なお合併症が発生した場合も、一般的には医療保険で対応いたします。

8. 受けない場合の予測される経過、代替手段（他の治療法）

手術を受けない場合、尿瘻は残存し自然に治癒することはまずありません。

9. 説明内容の理解と自由意思による同意承諾およびその取り消しについて

説明を十分に理解した上で、手術についての同意をご自分の意志で決めていただきます。

いったん同意をされた場合でも、いつでも撤回することができます。やめる場合は、その旨を担当者へ連絡してください。

この手術に同意されるかどうかは、患者様の意思が尊重されます。同意されない場合でも、不利益を受けることはありません。

現在の患者様の病状や治療方針について、他の専門医の意見を聞くことも可能です(セカンドオピニオン)。その際は、ご相談ください。必要な資料をご提供いたします。

10. 緊急時等

担当医が緊急の合併症と判断した場合、事態の改善にむけて全力を尽くします。

11. その他

術者： _____

説明者

説明日： 年 月 日 施行予定日： 年 月 日

診療科名： _____ 説明医師氏名（自著署名）： _____